

総合部 国語科セカンダリー 8ヵ年進度計画表 (順番が入れ替わることがあります)

	5年	6年	7年	8年
4月	<p>詩【朝のワグネル】谷川俊太郎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩にこめられた作者のメッセージを読み取り、そこにある人類的な視点を次の教材【のどがかわいた】につなげていく。詩の分類方法についても学ぶ。 <p>物語【のどがかわいた】ウーリー・オルレブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラエルの作家が「他者との融和」というテーマで書いたものであるというところに着眼し、人間同士の関係のみならず、国際間の関係についても融和が必要なのではないかとする作者のメッセージに迫る。 <p>文法【文の成分】</p>	<p>詩【せんねんまんねん】まどみちお</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な修辭法を知るとともに、師を鑑賞する中で、作者がそこにこめた「永続性、つながり」というテーマについても考える。 <p>物語文【カレーライス】重松清</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同世代の主人公をフィルターとして、個々の親子関係を見つめ直すきっかけを与えるとともに、微妙な年頃における理想的な親子関係について考える。 <p>文法【文の成分】</p>	<p>説明文【玄關扉】渡辺武信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と欧米の玄關の開き方の違いを説明した文章を読み、その文化、価値観の違いについて考える。 <p>文法【動詞の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年次に取り組んだ動詞の活用の総復習を行い、国語学的に文を解析する訓練をする。後の古典学習の成否に大きくかわかる場所であるゆえ、完全に理解するということを目指す。テキストは、一貫部と同じ「すらすら基本文法」を使用する。 	<p>論説【謎の空白時代】立花隆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空海の修行時代に言及した文章を読み、自分を高めようという姿勢の大切さについて考える。また、本文がエッセイとして収録されている立花隆の『青春漂流からの抜粋も通読することで、青春時代のあり方について考える。歴史の授業の予習という意味合いで、平安仏教界の様相についても学ぶ。 <p>古文【動詞の活用】</p>
5月	<p>解説文【新聞を読む】光野桃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年のテーマである新聞づくりにむけて、新聞編集の仕方や記事の書き方に目を向ける。 <p>説明文【生き物は円柱形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・序論、本論、結論がきわめて明確な文章を読むことで、文章の構成方法について知る。 	<p>説明文【生き物はつながりの中に】中村桂子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学万能の世にあっても、生き物はそれ以上に尊いということを理解させる。また、4月に取り組んだ「せんねんまんねん」との関連性についても考える。 <p>書【ようこそ、わたしたちの町へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる町のよさを伝えるパンフレットを作る。 	<p>小説【少年の日の思い出】ヘルマン・ヘッセ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公に裡に萌芽した「罪の意識」について考察し、6月に取り組む「夏の葬列」にそれを引き継ぐこととする。 <p>随想【この小さな地球の上で】手塚治虫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賢さ、愚かさの両面を持った人間が、今後どのように歩んでいくべきなのかを筆者の意見をふまえながら考える。 	<p>小説【デューク】江國香織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当代随一の人気作家のみずみずしい感性に触れるとともに、短編小説の構成方法を考える。随所にみられる象徴表現を丹念に読み取りながら、作品研究をすすめていく。 <p>古文【古今著聞集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く。
6月	<p>話す・書く【きいて、きいてみよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集能力、発信力の鍛錬をし、新聞製作をはじめとした今後の様々な活動に活かせるようにする。 <p>伝記【百年後のふるさとを守る】河田恵昭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波による災害からの復興に尽力した江戸時代の人物の伝記を読み、東日本大震災に直面した現代人に何ができるかということを考える。 	<p>説明文【平和のとどりを築く】大牟田稔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆ドーム設立の経緯を知ること、平和を希求する心を育むとともに、戦争の悲惨さについても考える。 <p>文法【文節・単語分け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文を解析する際の基準となる言葉の単位を理解し、古典学習をはじめとした国語学的なアプローチが必要となる今後の様々なシーンに備える。 	<p>小説【夏の葬列】山川方夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しく清冽な印象の作品を通読し、平和の尊さについて考えるとともに、作品に描かれた罪の意識について考える。きわめて秀逸といえる情景描写や重苦しい文体にも着眼し、その効果についても考える。 <p>文法【形容詞・形容動詞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫部と共通のテキストである「すらすら基本文法」を使用しながらすすめていく。 	<p>論説【人間は他の星に住むことができるのか】渡部潤一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火星をはじめとした太陽系の他の惑星について書かれた文章を読み、人間の火星移住の可能性について理学的に考えてみる。 <p>古文【古今著聞集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く訓練をする。動詞の活用を応用させた助動詞の活用にも取り組む。
7月	<p>鑑賞文の作成・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意の詩の鑑賞文を書かせ、発表させることで、表現力、伝達能力といったものを養う。 	<p>鑑賞文の作成・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意の詩の鑑賞文を書かせ、発表させることで、表現力、伝達能力といったものを養う。 	<p>鑑賞文の作成・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意の詩の鑑賞文を書かせ、発表させることで、表現力、伝達能力といったものを養う。 	<p>詩【レモン哀歌】高村光太郎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重苦しい題材をきわめて明るく色彩で表現した逆説の妙を味わう。
9月	<p>説明文【ニュース番組作りの現場から】清水建宇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年のテーマである新聞作りをより充実させるために、報道のプロセスを知る。 <p>物語文【注文の多い料理店】宮沢賢治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を通読することで、作者が発した自然への畏怖を忘れた人間への警告を読み取る。また、多くの近代知識人が危機した盲目的な欧米信奉というものについても考える。 	<p>物語文【やまなし】宮沢賢治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きわめて詩的な世界観を持つ物語を読み進めることで感性を高めていくとともに、付属資料「イーハトーブの夢」を通読することで、自然の尊さを訴えた作者の生きざま、思いについて考える。 <p>狂言【柿山伏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科で室町時代までを終えたタイミングでの取り組みにすることで、社会科で学んだことの復習という意味合いも兼ねながらすすめていく。 	<p>古文【竹取物語～蓬萊の玉の枝】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年次まで取り組んできた「古文に慣れる」というものではなく、「古文を読解する」という方向に目標をシフトする。狡猾な人物として描かれる「くらしの皇子」は車持氏からとったものであるかということなども議論しながら、未だ不明とされる竹取物語の作者についても推理する。 <p>短歌【新しい短歌のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三十一文字で表現された豊かな世界を味わうとともに、韻のリズム、表現技法を学ぶ。また、アララギ、明星などの主要な派閥の主義、主張なども、短歌を解釈することで考えていく。 	<p>小説【走れ!モス】太宰治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友情について考えるといったオーソドックスな作業をしながらも、一時話題になった「モスは走っていない」とした中学生の考察などを取り入れながらすすめていく。また、太宰治を中心とした無頼派の文学について学ぶ。 <p>古文【今昔物語集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く訓練をする。動詞の活用を応用させた助動詞の活用にも取り組む。
10月	<p>【想像力のスイッチを入れよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに採録されたPISA型の教材である。論理的に答えを導き出す力、および明記されていない部分を推理する力、いわゆる「言外の言」を読み取る力というものは、今後さらに高度で難解な文章を読んでいくうえでは確実に必要になってくる力である。同様のPISA型の補助教材も用いながら進めていく予定である。 	<p>随筆【かなえられた願い】 دونالد・キーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高名な日本文学研究者が抱く日本文学、および日本の伝統美への憧憬を知ること、わが国の伝統的な言語、文化への理解を深める。また、自国の文化を知り、発信することも、「グローバル」には不可欠なようであるということも理解する。 	<p>小説【夢十夜】夏目漱石</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三夜、第六夜を取り上げ、短編小説の構成について学ぶ。また、漱石をはじめとした多くの近代知識人が懸念した「急速な欧化」に「日本的アイデンティティの喪失」といったものにも触れ、その懸念が作品のどのあたりから読みとれるのかといったことにも言及していく。漱石近辺の文学史についても学習する。 	<p>【北海道の文学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道を舞台にした文学作品について知ること、翌月の北海道FWに備える。 <p>論説【イスラム感覚】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観の形成には環境的要素が大きくかわっていることを知るとともに、多様な価値観の存在を認めることの大切さについて考える。 <p>古文【徒然草】</p>
11月	<p>物語文【大造いさんとガン】椋鳩十</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上から見下すのではなく、動物と対等であるとする主人公の姿に学ぶとともに、動物でさえも持っている「仲間を思う気持ち」というものについても考える。 	<p>小説【草の小説～さくら】川端康成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーベル賞作家の流麗かつ精緻な筆致の文章を味わうとともに、作品の随所にみられる日本的な情緒、さらには戦争がもたらした悲しみといったものに関しても深く考える。 <p>文法【品詞の識別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口語の10品詞の識別の訓練を行い、国語学的なアプローチが必要となる今後の様々なシーンに備える。 	<p>論説【こぼれ力】大岡信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美しいと評されることの多い日本語であるが、それが何ゆえにそう評されるのかというところに言及した筆者の文章を読むことで、言葉は「単なる情報伝達のツール」ではなく、「人と人との繋ぎ「コミュニケーションツール」であるということを理解する。「言葉が人を表わす」という筆者の考えに着眼し、今日の言葉の乱れについても考える。 	<p>論説【キリスト教にかけられた嫌疑】日経エコロジー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然の克服」を教義としたキリスト教的世界観の拡大が今日の環境問題の根底にあるとする文章を読み、環境問題について考えるとともに、10月に取り組んだ「イスラム感覚」と合わせ、イデオロギーの一義化の根拠について考える。 <p>礼状作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FWでお世話になった関係協力機関の方々へのお礼状を執筆する。 <p>古文【平家物語】</p>
12月	<p>古典常識【月の異名】</p> <p>古文暗唱【竹取物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古語の響きに慣れるとともに、古典に対する興味、関心を亢進させる。 	<p>古典常識・冒頭文暗唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月の異名、古代の時法などを知るとともに、著名な古典作品の冒頭文暗唱に取り組む。社会科で2学期までに取り組んだ近代以前の歴史の復習も兼ねる。 	<p>古典文法【動詞の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8年次より本格的に取り組む文法的知識を活用しながらの古文の精読に向け、その準備に入る。 	<p>古典文法【用言の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫部合流に際してのミニマムである用言の活用に関する総復習を行う。
1月	<p>説明文【千年の釘にいとむ】内藤蔵吾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法隆寺、薬師寺の時代にすでにあった高度な建築技術を知るとともに、それに着眼し、そこにかつて使われた釘の再現に執念を燃やした人物の生きざまに学ぶ。 	<p>物語【海の命】立松和平</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の成長を軸とした物語の中にこめられた様々なテーマを探り、それを現代社会の様相と照らし合わせながら読み進めていく。何をもち「豊か」とするのかがいっとう価値観についても考える。 	<p>小説【蜜柑】芥川龍之介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の実体験に基づいて構成された小説を読み、登場人物でもある作者がわずかの間に得た慈悲のまなざしについて考える。それとともに、芥川龍之介を中心とした新現実主義の作家についても学ぶ。 	<p>小説【セメント樽の中の手紙】葉山嘉樹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正時代にもあった「格差」をテーマとした作品を通読することで、深刻な社会問題としてある現代の格差社会について考える。また、葉山嘉樹をはじめとしたプロレタリア文学の作家についても学習する。 <p>古文【醒酔笑】</p>
2月	<p>物語文【わらわつの中の神様】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「使う人の身になって」「心をこめて」という登場人物の姿勢を通して、名前も顔も知ることのない他者に対する誠意の尊さを理解し、それを誰もが持ち得ることのできる社会が人間らしい社会であるといえるのではないかと考える。 	<p>古典【枕草子・平家物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安女流文学特有の柔らかな文体と中世隠者文学特有の硬質な文体の違いを理解するといっとうところに重点を置きながらすすめていく。 <p>文法【動詞の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語学的に文を解析する訓練をする。 	<p>古文【伊曾保物語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に学習した動詞の活用に関する知識を用いたうえで本格的な精読に入る。きわめて平易な文章を文法的に緻密に解析しながら読んでいくことで、今後の古文学習の方法を身につけることを目的とする。 	<p>随筆【温かいスープ】今道友信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者のフランスでの昔年の体験が書かれた文章を読み、無償の愛の尊さについて考える。 <p>論説【マルジャーナの知恵】岩井克人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済システムの衰退についてわかりやすく書かれた文章を読み、今後の経済システムのあり方を考える。 <p>古文【醒酔笑】</p>
3月	<p>熟語の組み立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数ある熟語の組み立てに関して、そのパターンを知る。 <p>ディベート</p>	<p>故事成語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の成り立ちを知るとともに、今後の漢文の学習に対する興味・関心を亢進させる。 <p>ディベート</p>	<p>漢文導入【論語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な返り点のルール等を感じるとともに、儒家の思想、さらにはそれ以外の代表的な諸子百家の思想に触れる。 <p>ディベート</p>	<p>漢文導入【漢詩～杜甫・李白】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐代の二大詩人の詩を解釈しながら、漢詩のルールを理解する。 <p>ディベート</p>